

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 教育指導課長 山崎 敦史 電話番号 0852-22-5444

| | | |
|---------|---|--|
| 事務事業の名称 | 国際理解教育推進事業 | |
| 目的 | (1) 対象 | 公立小・中学校及び県立学校の児童生徒、教員 |
| | (2) 意図 | 英語によるコミュニケーション能力、国際理解など、グローバル社会を生き抜くために必要な力を身につけさせる。 |
| 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・県立学校に外国語指導助手（ALT）を配置し、各学校においてALTを活用した授業を行う。 ・高校生等の留学を促進するため、支援金を交付するとともに、説明会を開催する。 ・小中高を通じた英語教育において指導と評価の改善を図るため、指定校での研究や県内の教員を対象とした研修会を行う。 ・高校生等の英語コミュニケーション能力を向上させるため、英語セミナー及び英語ディベート大会を開催する。 ・小中学校で、日本語教育を必要とする児童生徒を支援するため、教員研修を行う。 | |

2. 成果参考指標

| (1) 成果参考指標 | 指標名 | 外国語指導助手（ALT）を活用した授業を実施している学校の割合 | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 |
|------------|--|---------------------------------|------|------------------------------|--------|--------|--------|--------|----|
| | | | 式・定義 | 全学校に対する、ALTを活用した授業を実施している学校数 | 目標値 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | |
| | | | 実績値 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | | |
| | | | 達成率 | | 100.00 | 100.00 | 100.00 | | % |
| 指標名 | 中学校2年生で、英語の授業はわかりやすいとする生徒の割合 | 年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 単位 | |
| | | 目標値 | - | - | - | 80.00 | 80.00 | | % |
| 式・定義 | 中学2年生で、英語の授業はわかりやすいとする生徒数/県学力調査を受けた生徒数×100 | 実績値 | - | - | - | 76.60 | | % | |
| | | 達成率 | | | | 95.80 | | % | |

3. 事業費

| | 26年度実績 | 27年度計画 |
|-------------|--------|---------|
| 事業費(b) (千円) | - | 103,225 |
| うち一般財源(千円) | - | 87,426 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・全ての県立学校でALTを活用した授業が行われている。
- ・中学校2年生で英語の授業はわかりやすいとする生徒の割合は76.6%で、中学校1年生の88.6%と比べると低くなっている。
- ・高校生等の留学を促進するため、県の高校生等留学支援事業（短期派遣）を実施し、12名を派遣し、8名に支援金を交付することとしている。
- ・高校生等を対象に留学説明会を2会場で開催し、延べ45名の生徒・保護者が参加した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・全ての県立高校においてALTが活用されており、特にALTを活用した授業においては、現行の学習指導要領に示されている、「生徒によるコミュニケーション活動」の充実が図られ、「授業は英語で行うことを基本とする」ことが促進されている。
- ・小・中学校の日本語指導が必要が児童生徒に対する指導について、各学校における指導方法の工夫・改善及び指導力の向上を図ることにつながった。
- ・高校生等を対象に留学説明会を実施し、保護者の理解を促進し、生徒の留学への意欲を喚起した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・ALTを活用した授業時数はどの学校でも多くはないため、ALTを活用していない授業において、「生徒によるコミュニケーション活動」や「授業は英語で行うこと」が進んでいない場合がある。
- ・県学力調査結果から、「英語の授業が好き」「英語の授業がわかりやすい」と答えた生徒の割合は、中学校1年生から学年が進むにつれて低下する傾向にある。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・学校で実施する英語の授業時数に比べて、ALTの数が少ない。
- ・英語に対する生徒の興味関心を高め、学習指導要領で求められる英語力を身に付けるための授業改善が十分に行われていない。

③原因を解消するための「課題」

- ・ALTを必要とする学校に少しでも多く配置及び派遣するため、ALTの配置数及び配置校について見直ししていく必要がある。
- ・学習指導要領で求められる英語力を身に付けるための授業改善が進むよう、教員研修を充実させていく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・平成27年度夏来日から、県立学校に配置するALTの数を1名増やす。これにより、松江市内の学校において、よりALTを活用した授業展開が可能となる。ALTの増員により「生徒のコミュニケーション活動」の割合、及び教員が「英語で授業を行う」割合がどのように変化するかを検証し、今後の施策立案の参考とする。
- ・小中学校での英語教育導入に向けた国の動きを踏まえ、英語教育強化拠点地域における小学校英語教育のカリキュラム・指導方法の研究を推進するとともに、小学校・中学校・高等学校の教員を対象とした英語授業の改善に向けた研修を充実させる。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）